

令和5年4月18日(火)に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された、「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、本市のすべての小中学校が参加しております。

【結果の概要】

1 教科に関する調査

(1) 小学校国語

- ・話や文章の中心となる語や文を捉えることはできています。
- ・複数の情報を整理して、自分の考えが伝わるように工夫して書き表すことに課題があります。

(2) 小学校算数

- ・伴って変わる二つの数量について、変化の特徴を考察することはできています。
- ・図形を構成する要素などに着目して、図形の性質を考察することに課題があります。

(3) 中学校国語

- ・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできています。
- ・読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめることに課題があります。

(4) 中学校数学

- ・問題場面における考察の対象を捉えることはできています。
- ・問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題があります。

(5) 中学校英語

- ・日常的な話題について、短い情報を聞き取ることはできています。
- ・社会的な話題について、自分の考えや理由を表現することに課題があります。

2 質問紙

(1) 小学校児童

- ・「人の役に立つ人間になりたい」と考える児童が増えています。
- ・毎日朝食を食べていない児童が一定数おり、基本的な生活習慣の定着に課題があります。

(2) 中学校生徒

- ・「自分にはよいところがある」と感じている生徒が増えています。
- ・中学生という発達段階や学習内容に適した家庭学習の時間に課題があります。

【本調査結果に基づく改善点】

1 主体的・対話的で深い学びの実現

「評価からの授業改善」を通して、個別最適な学びと協働的な学びを往還しながら、主体的・対話的で深い学びのある授業実践を推進します。

2 習熟度別指導やICTの活用等による個別最適な学びの推進

児童生徒一人一人の能力等に応じて学習に取り組めるように、小学校算数科、中学校数学科と英語科を中心に習熟度別指導を行ったり、ICTの活用等により家庭学習を工夫したりします。

3 学力向上行方版アプローチ・スタートカリキュラムと年間複数回の計画的な学び直しの実施

課題となる内容について、学校間・学年間の接続の時期、その他年間複数回の学び直しや補充的な学習を計画的に行い、学習の積み重ねに必要な既習事項の確実な習得を図ります。

4 児童生徒の挑戦心、達成感、自己有用感の育成

居場所づくり、絆づくりを大事にした学級経営の充実、社会との接点を重視した郷土と社会を切り拓く課題解決型学習プログラムの実践を通して、児童生徒の挑戦心、達成感、自己有用感を育成します。

5 家庭や地域との連携による児童生徒の自己管理能力の育成

基本的な生活習慣の育成（睡眠時間の確保、朝食の摂取、むし歯予防）、発達段階に応じた家庭での学習習慣の育成、テレビゲームやSNS等の利用に関する家庭でのルールづくりや見直し等を家庭やPTAと連携し、児童生徒自らが考え、判断する機会を設定して推進します。

【本調査について】

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒

3 調査内容 (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語(中学校のみ)) (2) 質問紙調査(児童生徒、学校)

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日 令和5年4月18日(火)